

第 1 号議案 名誉会員の推薦（案）

長年にわたり、助産業務に功績があり日本助産師会の活動に貢献された次の 5 名を名誉会員として推薦したい。

おつか はなこ
1 小塚 花子（95 歳）茨城県

仕事一途に、生涯を助産師業務に従事してきた。

戦前戦後の 42 年間は看護婦及び助産婦として病院に勤務し、分娩介助の他、管理業務、看護職員の教育等も積極的に行い、母子への貢献の他、医療の充実 病院の発展に寄与した。

病院を退職した後は、さらなる助産技術の向上を目ざして、乳房管理法を 1 年間学び、母乳育児が困難な母親に対し、熱意をもって乳房のケアを行い、母乳育児推進に尽力した。また、家族の健康管理に関する知識の普及に努めるなど地域母子保健の向上に貢献した。

さらに、教育熱心で茨城県助産師学校の講師や実習生の指導を多忙な業務の中 80 歳まで続け、助産師学生の養成に尽力した。助産師会員への教育は現在も行っており、後輩助産師の資質の向上にも尽力している。

上記のような功績を認められ、昭和 53 年に茨城県知事賞、平成 7 年に厚生大臣賞等、多数の表彰を受けている。

いしかわ やよい
2 石川 彌生（86 歳）静岡県

【助産及び母子保健指導に関する功績】

昭和 25 年助産師免許取得、昭和 26 年看護婦と保健婦の免許を取得した。昭和 33 年までは小学校の養護婦や保健所の保健師として活動していたが、昭和 33 年から母親の開設している助産所で助産業務を開始し、昭和 59 年までの 26 年間に 2300 人余の分娩介助を行った。

また、昭和 48 年から 9 年間、民間において母親学級を主宰した。今日のように分娩施設内での出産準備教育が徹底されていなかった時代で、そのニーズは高く、毎回盛況で指導対象者は延べ 7000 人余に及んだ。

昭和 57 年、浜松市母子保健センター開設により事業の一部が浜松市助産師会に委託されて以来 15 年間、常駐勤務者として妊産婦指導、家族計画指導、乳幼児相談等、個別指導を中心に従事し、地域母子保健に貢献した。

【助産師会活動に関する功績】

平成 5 年より（社）日本助産師会静岡県支部副支部長に就任し、支部長の補佐役として約 6 年間支部活動に尽力した。同時に平成 5 年より 11 年間、浜松市助産師会の会長としてリーダーシップを発揮し、会員の統率、若手助産師の指導にあたった。

平成 11 年に（社）日本助産師会静岡県支部支部長に就任し、5 年間の在任中、静岡県支部のホームページを開設し、子育て・女性健康支援事業推進部設置の実現に奔走した。その時に始まった「命のはなし」助産師出前講座は現在も続いている。退任後も後輩の指導に尽力した。現在も会員に尊敬され、慕われている。

3 ^{みき さちこ}三木 幸子（84 歳）滋賀県

名誉会員へ三木氏を推薦する理由は以下の 3 点である。

1.助産所開業及び地域貢献業績

昭和 32 年 3 月京都大学医学部附属助産師学校卒業後、同年 4 月より 10 年間大津赤十字病院産婦人科に勤務される。その後、大津助産所の勤務を経て、昭和 47 年榎田助産院の開設者となり開業に至る。平成元年同助産院院長に就任され、現在に至る。この間取り扱った分娩は 3150 件である。また地域母子保健業務にも携わり・昭和 43 年から平成 9 年の間大津保健所において妊婦教室の講師や訪問事業に従事された。新生児訪問は、約 5000 件、妊婦訪問は約 340 件と地域に根差した活動を行われた。さらに、昭和 56 年から平成 24 年迄滋賀県立総合保健専門学校助産課程や滋賀県立大学人間看護部助産課程において、非常勤講師として助産教育に携わられた。

2.日本助産師会・滋賀県助産師会関連業績

日本助産師会地区理事を 3 年間務められた。大津助産婦会長、支部会計 6 年間、滋賀県助産師会支部長 7 年、監事を 7 年務められた。

平成 15 年には『社団法人日本助産師会滋賀県支部 75 周年記念誌』の発刊に際し主任責任者として貢献された。

平成 11 年には、子育て支援事業に取り組み平成 15 年全国に先駆け滋賀県と委託契約締結し[子育て・女性健康支援センター]の立ち上げに貢献された。事業は継続され現在相談件数は年約 1200 件である。

3.受賞業績

昭和 56 年 11 月「母子保健奨励賞（日本母子保健衛生助成会/母子衛生研究会/財団法人課程保健生活指導センター）」、昭和 61 年 3 月「滋賀県知事表彰」、平成 2 年 5 月「滋賀県看護功労賞」、平成 9 年 5 月「日本看護協会会長表彰」同年「厚生大臣表彰」、平成 11 年 11 月「黄綬表彰」叙勲、平成 21 年「村松志保子賞（村松志保子助産師顕彰会）」と多くの受賞歴がある。以上のことから、長年にわたりご尽力されたことを評し日本助産師会名誉会員へ推薦する。

おおきた のぶこ
4 大北 展子（93 歳）徳島県

大北展子助産師は、美郷村という僻地の無医村地区において、昭和初期から開業助産婦として活躍していた叔母に学び、昭和 28 年に本籍地に大北助産所を開業した。以来 2000 例以上の多くの分娩介助と母子支援を行っている。冬には積雪の多い山の中を、提灯の明かりで分娩介助に出掛けたり、貧しい農家の妊産婦の為に、米や醤油や砂糖を持って困難な山道を訪ねる事も常であったと、当時の森岡スミ徳島県支部長様は紙面に書かれている。持前の健康な身体と、誠実で妥協を許さない仕事ぶりは、地域の人々からも厚い信頼を得て多くの賞を受賞された。

助産師の仕事に対する強い信念と深い愛情は、ご自身が 11 歳の時に、出産で母親を亡くされた経験から、より母子の安全と幸せを願う気持ちが強いのではないかと想像できる。壮年期には、麻植郡助産師会会長と日本助産師会徳島県支部副支部長を兼任されるなど、組織の為に永年活躍されてきた。93 歳の現在も、出産後の母親から乳房マッサージの依頼を受ける事も度々あり丁寧に指導されている。

（一社）徳島県助産師会からの会報誌や郵送物は丁寧に読まれている。

後輩助産師達にとって、大北助産師の永年の功績と前向きな姿勢は模範であり、名誉会員にふさわしい人物と考え推薦致します。

もろなが みよこ
5 諸 永 ミヨ子（87 歳）福岡県

<施設・母子保健行政での勤務助産師として>

昭和 23 年 6 月助産師資格取得後は施設勤務、国立筑紫病院、福岡市南保健所母子係りにて母子保健行政の業務を実施する。さらに居住地を久留米に移転後、久留米保健所にて同様に母子保健

行政に携わり、母子支援を実践。戦後の公衆衛生事業として妊婦健診、乳幼児健診にも参加し母子衛生の向上に尽力する。

<病院勤務から中核都市における看護管理勤務助産師として>

昭和 41 年から、療法人雪の聖母会聖マリア病院に助産婦として勤務、多くの出産に立ち会い助産師として母子への妊娠・出産子育てへの支援を行うとともに後輩指導に努めた。

新たに佐賀市医療法人輔仁会内野病院に師長として勤務し、看護管理業務や後輩育成に尽力した。

<中核都市において地域の母子支援事業について>

昭和 60 年以降今までの助産履歴や地域母子行政における業績を基に、さらに地域に根ざした子育て支援活動を実施。

久留米市の母子訪問指導員として母乳、育児、産後相談に応じ出張を行っている。また現在は高年初産者のマタニティ教室の非常勤として指導や信愛女学院短期大学子育て支援センターにて非常勤講師、医療法人雪の聖母会聖マリア看護短期大学の学内非常勤講師、実習指導者として精力的に活動を続けている。

<福岡県・久留米市助産師会における貢献>

福岡県助産師会副会長、久留米市助産師会会長として福岡県の助産師の技術向上と専門性を高めるために教育研修を企画・運営し、助産師学生の臨地実習指導を担当し後輩の育成に尽力している。現在も福岡県助産師会活動において推薦委員として県の組織運営において指南するなどの活動を行っている。